

【全体概要】

既存品種(特に巨峰)による露地栽培が7割以上を占める本県では、温暖化による着色遅延や着色不良が懸念されるため、優良品種導入と省力化が可能な技術等の普及が急務となっている。

そこで、生産安定と省力化が可能な短梢平行整枝等の栽培技術を現地実証しながら、既存品種より消費者ニーズが高く、温暖化等の気象変動による品質低下の影響が少ない無核大粒の優良品種や、増産拡大要望が多い醸造用ぶどうの生産拡大を進めるため、本事業に取り組んでいる。

新品種・新技術等の概要

1 新品種 シャインマスカット、クイーンニーナ、アルバリーニヨ等

2 新技術

(1) 着色向上技術

ジベレリン1回処理方法の有効性や環状剥皮の効果を確認実証した。

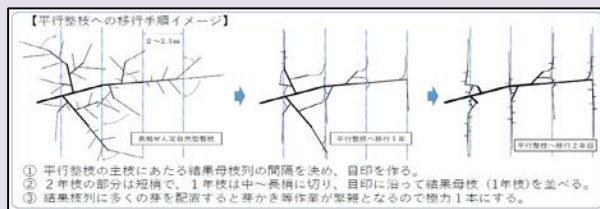


実証方法		供試樹: 5年生クイーンニーナ X型自然型整枝中梢せん定
ジベレリン処理方法(満開日: 5月20日)		
区	処理時期	処理濃度
1回処理	①満開3~5日後 (5月24日)	ジベレリン25ppm + フルメット液剤10ppm
2回処理(慣行)	①満開時~満開3日後 (5月19~23日)	ジベレリン25ppm + フルメット液剤 5ppm
	②満開10~15日後 (6月5日)	ジベレリン25ppm

*記載されている濃度は令和2年3月10日現在の農業書籍によるものです。

(2) 省力栽培技術

巨峰25年生樹の長梢自然型整枝を平行整枝に変更し果実品質の差異を検討した。



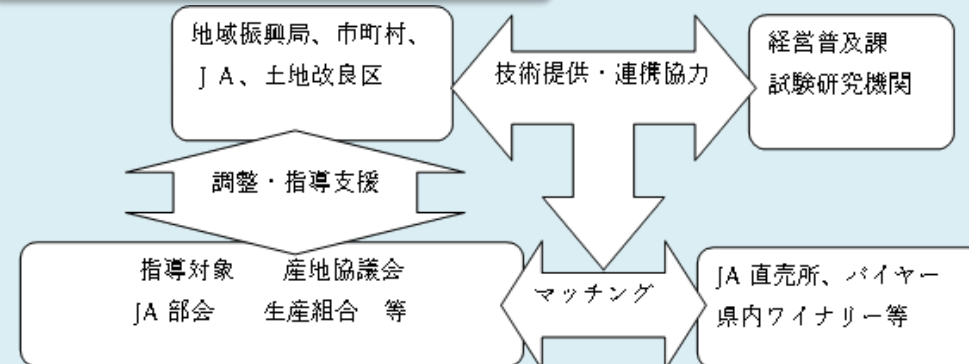
主な取組内容

- 品種・技術の特性把握
 - 県内9か所で生産性及び耐雪性実証ほを設置
- 検討会の開催
 - 実証ほの現地巡回、成績検討会を開催
- 先進事例調査
 - 長野県、山梨県等への先進事例調査を実施
- 産地・実需者の意向・ニーズ等調査
 - 市場、ワイナリー等へのニーズ調査を実施
- 栽培・技術マニュアルの作成
 - 取組1年目として暫定版マニュアルを作成



【ぶどう導入研修会】

実施体制図



課題と今後の対応

【課題】

既存産地ではシャインマスカットやクイーンニーナ等新品種の導入が少しずつ拡大しているが、導入比率は2割にも届かず、所得拡大、経営安定面ではまだまだ拡大推進が必要となっている。

また、これまで新潟県の果樹栽培地域は、信濃川中流域を中心とした平野部の少雪地域に主要産地が形成されてきたが、ぶどうの省力栽培技術の確立、普及により、中山間地域を含めた県内全域において、新たな果樹導入を推進し農業産出額の拡大を図ることが課題である。

【今後の対応】

このため、新品種の安定生産技術をマニュアル化して生産拡大を図る。

特に、短梢平行整枝栽培は植栽後2~3年で樹形が完成し、未経験者でも早期成園化による部門導入が期待できることから、新品種・新技術導入普及により生産意欲を高めていく。

また、醸造用原料ぶどうもマッチング活動から、ワイナリーの需要が明らかとなったので、生産拡大を図っていく。